

医療従事者の負担軽減及び処遇改善に資する計画

2023年4月策定

1 勤務医（医師）の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

① 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目	目標達成年次	具体的な取り組み内容
外来初診時選定療養費の実施	継続取組	外来診療に対する負担を軽減するため、初診時選定療養費を導入し、疾病初期段階の患者や明らかに軽症と判断される患者を当院受診から地域の近隣医療機関の受診へ促すような説明を実施。
初診時の問診の実施	継続取組	初診にて来院された患者さんに対して総合受付にて看護師を配置し、診察前に問診を実施することで適切な診療科への案内を行う。
静脈採血等の実施	継続取組	生体検査検体取得のための静脈採血等は、事前のオーダーがある場合、看護師が実施。
入院の説明の実施	継続取組	入退院サポートセンターを設置し、入院前の準備段階から入院中の生活はもちろんのこと、入院中に行われる治療の説明、入院前の服薬状況の確認、早期の退院促進に向けた働きかけを行う。
検査手順の説明実施	継続取組	検査前の説明を医師だけでなく、検査項目パンフレット等を利用し看護師による説明を行い患者さんの安心・安全・適切な検査が実施できるような環境を整え、身体的・精神的な不安の解消に努める。
薬の説明や服薬の指導	継続取組	全病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務としてハイリスク薬の投与前説明、退院時薬剤的管理指導ならびに医師の依頼に基づき薬剤管理指導を実施。
PBPM（Protocol Based Pharmacotherapy management）に基づく薬剤師の処方代行の実施	2022年度	医師と事前合意されたプロトコルに基づき薬剤師の代行入力を認めるものであるが医行為である医師の処方権を侵害するものでなく、薬剤師が処方提案して医師が合意したものないしは、医師が手術中や緊急やむを得ない時に医師が薬剤師に指示し、最終的に医師が確認して薬剤師による処方代行を認めるものとする。
検査技師によるエコー検査の実施	2022年度	専門的な知識と技術を修得した生理担当の検査技師がエコー検査を担当することにより、医師の受け持つエコー対象患者数の減少を図っている。 今後更にエコー検査の実施可能な技師を養成予定。
医師事務作業補助者の配置	継続取組	医師事務作業補助者を配置・育成し、医師の指示のもと診断書などの文書作成補助、診療記録への代行入力、医療の質の向上に資する事務作業、並びに行政上の業務を行い、医師の業務負担軽減を図る。今年度4月より15：1の配置を行い、さらなる業務拡大を目指す。
チーム医療の促進	継続取組	看護師の知識と技術を向上させることにより、医師との業務分担を更に推進すると共に、栄養士や薬剤師・検査技師・放射線技師、臨床工学技士等の医療技術部門においてもその活動範囲を拡大することにより、常勤医の負担軽減を図る。
院内処方箋における疑義照会適正化プロトコル	継続取組	院内処方箋についてプロトコルを作成し、薬剤部で対応できるものについては対応し、医師へ報告することで医師の負担軽減を図る。
情報通信機器を活用した業務効率化・省力化の推進	2021年度	情報通信機器を活用した業務効率化・省力化の推進の状況を考慮する。

② 医師の勤務体制等にかかる取組

項目	目標達成年次	具体的な取組み内容
勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施	継続取組	2夜連続での当直割り振りは行わない。
当直翌日の業務内容に対する配慮	継続取組	目標達成年次：2024年度 適正な勤務時間管理を行い、勤務間インターバルを確保する仕組みを構築する。
非常勤医師の活用	継続取組	救急センター及び透析センターにおける勤務については、院内常勤医の他に他医療機関からの非常勤医を交えてそのローテーションを組むことにより、常勤医の負担を軽減中である。
夜間当直業務の軽減	継続取組	目標達成年次：2024年度 夜間帯業務の取り扱いを見直し、交替勤務制・複数主治医制が導入可能であるかを検討する。
短時間勤務の導入	継続取組	子育て中の医師の負担軽減として、育児短時間勤務を導入中。

2 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画

① 看護師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目	目標達成年次	具体的な取組み内容
入院患者の持参薬確認業務等の分担	継続取組	病棟薬剤師の導入による持参薬確認業務等の分担を行う。
採血業務の分担	継続取組	目標達成年次：2022年度 臨床検査科に看護師を配置し、外来看護師の採血業務の負担を軽減する。
医療機器の管理分担	継続取組	医療機器管理システムを活用し、円滑な機器運用を臨床工学技士が行う。
クランクの配置	継続取組	各病棟・外来にクランクを配置することで、病棟・外来における様々な事務的業務を実施。
夜勤減免制度の導入	継続取組	小学校始期に達するまでの子のある職員は深夜勤務及び時間外勤務を制限可能とする。
短時間勤務の導入	継続取組	子育て中の看護師の負担軽減として、育児短時間勤務を導入中。
看護補助者の配置	継続取組	派遣社員の導入で準夜勤務の看護補助者は確保出来たが、2交替勤務で深夜業務が出来る補助者の確保を目指す。有期雇用職員の2交代制業務の導入と交替勤務可能にするための人員増。
クランクの増員	2021年度	廃止。上記内容に追記する。
採血室の増員	2021年度	廃止。上記内容に追記する。

② 看護師の勤務体制等にかかる取組

項目	目標達成年次	具体的な取組み内容
★ 11時間以上の勤務間隔の確保	継続取組	管理当直開けの代休確保または翌日の遅出業務への切り替えを確実に実施する。
★ 夜勤の連続回数が2連続（2回）まで	継続取組	看護師確保への取り組み。
★ 暦日の休日の確保	継続取組	勤務表作成確認表によりチェックし、連続した休日が平等に取れるように配慮する。
★ 早出・遅出等の柔軟な勤務体制の工夫	継続取組	各部署に合わせた勤務時間となるように柔軟な時間配分とする。
看護補助業務のうち50%以上が療養生活上の世話	継続取組	現在比率の確保は出来ているため離職防止に努める。
★ 看護補助者の夜間配置	検討中	有期雇用職員の2交替勤務の導入。常時夜間100対1の取得を可能にするため、更なる人員の確保に努める。委託契約職員の時間の変更を検討。
★ みなしを除いた看護補助者比率50%以上	継続取組	現在比率の確保は出来ているため離職防止に努める。
★ ICT、AI、IoT等の活用による業務負担軽減	検討中	情報通信機器を活用した業務効率化・省力化の推進の状況を考慮する。

※ ★4項目以上で看護職員夜間配置加算算定可能

3 その他

項目	目標達成年次	具体的な取組み内容
職員のメンタルヘルスを支援する体制を整える	継続取組	今年度よりこころの相談窓口担当者として公認心理士・臨床心理士に担当して頂き、積極的に活用する。
ハラスメントに適切に対処する組織をつくる	継続取組	項目の変更：ハラスメントのない職場環境をつくる ハラスメントに関する情報を発信する。また、2022年度に規程の見直しを行ったため、職員への周知を行う。
管理職等の職員の意識改革	2021年度	目標達成年次：継続取組 内部統制研修会の実施。